公益社団法人ふくい市民国際交流協会

平成２８年度市民活動促進事業助成金　募集要項

１．目的

この事業は、公益社団法人ふくい市民国際交流協会（以下「当協会」という。）が、福井市を拠点に活動する団体が、新たに企画・実施する各種の国際交流及び多文化共生事業を助成することにより、市民レベルでの国際交流及び多文化共生に係る活動を推進することを目的とする。

※多文化共生事業とは

グローバル化が進展し、日本に居住する外国人 住民が定住傾向にある中で、文化的背景を異にする人々が共生・協働する社会の構築を推進するために行う事業。

２．助成対象者

市民レベルでの国際交流及び多文化共生のまちづくりの推進に寄与することを事業目的に含む団体であって、活動拠点が福井市内にある次の団体とする。

（１）公益法人

（２）ＮＰＯ法人

（３）その他の非営利団体（任意団体については、規程、会則等により目的、組織、代表者など団体の運営に必要な事項について定めがある団体に限る。）

３．助成対象事業

助成対象事業は、上記に適合する団体が、新たに企画・実施する国際交流及び多文化共生の推進に係る次の事業とする。

（１）市内で開催される国際交流及び多文化共生事業

①　地域住民の国際理解を深めるための事業

②　地域住民と在住外国人等が交流するための事業

（２）その他、地域の国際交流・多文化共生推進に寄与すると認められる事業

ただし、次の事業は助成の対象から除く。

①　営利・宣伝を主たる目的とする事業

②　学会その他、主たる目的が学術などの振興であると認められる事業

③　当該事業の成果が特定の個人又は団体の利益にのみ寄与するものと認められる事業

④　政治活動又は宗教活動を目的とする事業

⑤　国際交流団体等又は支部組織等の構成員等の学習・研修の域に止まるものと認められる事業

⑥　他団体から助成を受けている事業

４．申請方法

所定の助成金申請書（様式１）に必要事項を記入し、次の添付書類を添えて当協会事務局まで提出するものとする。なお、提出された書類等は原則として返却しない。

　①　事業計画書（様式２）

　②　収支計画書（様式３）

　③　申請団体の組織及び事業の概要（任意）

５．申請書の受付期間

平成２８年４月４日（月）～４月２８日（木）

６．事業の実施期間

平成２８年５月７日（土）～平成２９年３月２６日（日）

７．選考および選考結果通知

（１）選考

選考は、当協会が設置する選考委員会において事業内容が助成の目的及び基準に適合しているかどうかを審査し、助成対象事業及び助成金の交付額を決定する。

なお、申請額の合計額が当協会の助成金に係る予算額を超えた場合は、より効果が期待される事業から予算の範囲内で順次決定する。

（２）選考結果の通知

選考結果については、申請受付締切り後、概ね３週間以内に申請団体又は代表者に通知する。

８．助成額

助成額は、１事業当たり１５万円を限度に助成対象経費の額に応じて決定する。※　平成２８年度助成金の予算総額　　２９万円(予定)

【助成団体配分の例】

助成額１５万円 １団体, 　助成額５万円 ２団体, 　助成額２万円 ２団体, 　計５団体

９．助成対象経費

助成対象経費は、別表「助成対象経費の科目及び限度額一覧表」に明示された経費とする。

１０．助成決定後の手続き

（１）事業内容変更申請

助成決定通知の受領後に事業内容の一部を変更する必要が生じた場合は、事前に次の書類を提出し、当協会の承認を受けるものとする。（※軽微な変更は除く）

①　事業計画変更申請書（様式４）

②　事業計画書（様式２）※変更後

③　収支計画書（様式３）※変更後

（２）事業報告

事業終了後、原則として３０日以内に次の書類を当協会事務局へ提出する。なお、提出された書類等は、当協会の資料として情報公開の対象とする。

①　事業実施報告書（様式５）

②　収支決算書（様式６）（※領収書の写し等証拠書類の添付が必要）

（３）助成額の確定

助成額は、上記提出書類に基づき精算し、交付額を確定する。

※精算の結果、申請時の交付決定額（上限額）から減額となる場合がある。

１１．交付決定の取消等

交付決定された事業であっても、次の場合には助成額の減額や交付決定の取消をすることがある。また、既に助成金を交付している場合は、期限を定めて助成金の返還を請求することがある。

（１）助成対象事業を実施せず、又は実施する意思がないと認められる場合

（２）交付申請の内容に虚偽が認められた場合

（３）助成金を目的以外に使用したことが認められた場合

（４）助成金交付の条件に違反した場合

（５）その他助成金に関する規定に違反した場合

１２．助成金の交付申請に当たっての留意事項

（１）助成金は、原則として事業終了後の精算払いとなる。

（２）助成金は、申請者又は代表者と同一名義の口座にのみ振り込む。

（４）交付決定された事業は、当協会ホームページで公開する。

（５）助成金の交付は、１年度につき１団体１事業を限度とする。

（６）同一団体が行う同一事業に対する助成金交付は３回を限度とする。

１３．申請書類送付先及び紹介先

〒910-0005福井市大手３丁目１２－２０

公益社団法人ふくい市民国際交流協会

℡: ９７－５０２０　　　Fax: ９７－５０２２

E-Mail: fukuikokusai＠fcia.jp　　　URL: http://www.fcia.jp

【別表】

助成対象経費の科目及び限度額一覧表

|  |  |
| --- | --- |
| 科目 | 説明及び助成限度額 |
| 諸謝金 | 講師、通訳などに支払う謝礼等（運営ボランティア謝礼は除く）  ※助成限度額は一人１回５０００円 |
| 旅費 | 講師等の交通費や宿泊代、運営ボランティアの交通費等（駐車料含む）  ※交通費・宿泊代の助成限度額は、片道５０００円・一泊５０００円 |
| 消耗品費 | 用紙、文具等を購入するための経費  （カメラ、プロジェクター、机、椅子などの備品購入は除く） |
| 印刷製本費 | 募集案内やチラシなどの資料等の印刷代、写真のプリント代等 |
| 通信運搬費 | 文書・資料等の郵送料、資材等の運搬費等 |
| 賃借料 | 会場使用料、物品のレンタル料、施設入場料等 |
| 保険料 | 当該事業の活動に係る部分のみを対象とした保険に加入する経費 |
| 雑費 | 教材購入など事業実施に付随して必要となる軽微な経費 |

市民活動促進事業助成金　助成例

|  |  |
| --- | --- |
| 団体名 | イングリッシュセミナー実行委員会 |
| 事業名 | ①Awareness Day |
| ②English Autumn Seminar2014 |
| ③English Spring Seminar2015 pre-session |
| ④English Spring Seminar2015 |
| 事業の趣旨 | 福井県在住の高校生・大学生が海外に目を向け自分の夢や目標設定する「手助け（Facilitation）」を目的としている。その中でも以下の３つを重要視する。 |
| （１）英語を学ぶということは英語圏の人々の思考・文化を学ぶことであり、英語独自の発音や振る舞い方（視線のやり方）や考え方を学ぶ機会を与える。 |
| （２）コミュニケーションは中身が重要である。その訓練として、英語でディスカッションを行い英語での「聞く力」「話す力」のみならず「考える力」を高める機会を提供する。 |
| （３）留学の実現や国際的キャリアを積むための動機付けと英語の学習意欲の向上を目指す。 |
| 事業の内容 | ①ワールドカップのパブリックビューイングおよびサッカーイベント裏にある児童労働の問題についてディスカッションした。 |
| ②③④英語でのディスカッションや料理作りなどを行った。 |
| 団体名 | アースリンク |
| 事業名 | 外国人と日本人のための国際理解講座 |
| 事業の趣旨 | 同じ地域住民として、日本人と外国人が、それぞれの国についての勉強、料理などを一緒に体験することにより連帯感が生まれ、自然な交流ができる。そしてお互いの国の文化に興味が湧き、更に理解しようというきっかけになり、そのことが快適な多文化共生の一歩に繋がっていく可能性が大きいと考えられる。 |
| 事業の内容 | ○料理講座・・・ベトナム編 |
| 実習生として福井に来た女性に“あげ春巻き”や“つけ麺”作りを教えてもらい、全員で料理・試食し、日本のそうめんや中国の春巻きなどとの違いについて話し合った。 |
| ○料理講座・・・日本編 |
| 日本料理の代表である“炊き込みご飯”“天ぷら”“具だくさん味噌汁”“お浸しのたまご巻”を作った。 |
| 〇料理講座・・・ロシア編 |
| ロシア出身の女性に“ボルシチ”“サラート　スタリーチヌイ（ポテトサラダ）”“ブリーヌィ（クレープ）”作りを教えてもらい、ロシア民謡やコカリナ演奏を楽しんだ。 |
| 団体名 | 清明国際交流クラブ |
| 事業名 | ①国際理解講座 |
| ②清明ワールドフェスタ２０１４ |
| ③しゃべり場 |
| 事業の趣旨 | 地域に住む外国籍の方と住人との交流・ふれあいを目的とする。交流を通して世界への興味や好奇心を深めてもらう。さらに、子どもたちに多文化共生の意図を伝える。 |
| 事業の内容 | ①地域に住むブラジル出身の方を講師に招き、ブラジルの文化や生活習慣について学んだ。 |
| ②地域の子どもたちと外国人住民が、イギリスとウルグアイの遊びを通して、文化を学んだ。 |
| ③地域に住むフィリピン出身の方を講師に招き、フィリピンの家庭料理を作った。 |